平成29年度高等学校授業力向上研修講座を終えて

教諭　鈴　木　愛　梨

Ⅰ　はじめに

この仕事に就いて良かったと思えることの一つが、「学ぶチャンス」が多くあることだ。初心を忘れる暇もないほどたくさんの研修が設けられていることはありがたいと思う。今回も貪欲に、多くを学ぶことができたと感じるので、その一端をここに記す。

Ⅱ　中学校・高等学校授業力向上研修講座Ⅰ部（他の先生方の授業の参観および協議）について

今回の研修では、採用3年目、8年目の教諭が授業のDVDを参観しあい、それについて協議を行った。例年、中学校と高校は分かれて実施しているようであるが、今年は中・高合同実施だった。普段参観することができない中学校の先生方の授業を参観できたことは本当に幸運であったと感じる。他の先生方の授業を参観して、「良い授業」にするためには以下の3つの要素が必要であると感じた。

①授業の目的、目標が明確であること。

「この50分間で生徒にどのような力をつけさせたいのか、何ができるようにさせたいのか」ということを、何よりも先に考えなければならない。これが決まると、そのために必要な活動やワークシートが決まっていくし、それらをどのような順番で行うのか、またどのような発問をどのようなタイミングで行うのか、といったことも決まっていく。限られた50分で行うべきことが精選されていくと感じる。

②生徒のモチベーションの上げ方が上手であること。

疑問文を扱った中学校の先生は、グループ対抗のジェスチャーゲームを通して生徒に何度も“What’s this?”　“This is ～.”の文を話させていた。また道案内の単元を扱った中学校の先生は、教科書に出てきた地名や駅名は用いずに、その学校の近くにある駅や建物を用いて生徒に道案内をさせていた。このように、生徒の競争心を駆り立てたり、生徒の身近なものに題材を置き換えたりすることで、英語に苦手意識のある生徒も積極的に授業に臨むようになるだろう。生徒のモチベーションを上げるものとして、視覚教材（visual aids）やロールプレイなどを効果的に用いている先生もいた。また、スモールステップを設けてすべての生徒が着実に自力で英語を書いたり話したりすることができるように工夫し、生徒に達成感を味わわせている先生もいた。

③教員の教える姿勢が適切であること。

今回の研修では中学校3名、高校2名の先生方の授業を見させていただいたが、一人一人、表情、声量、声のトーン、立ち方などが異なっていた。また必要に応じて指示を繰り返したり、ジェスチャーを用いたりしている先生もいた。これらを意識するか否かは大きな違いがあると感じる。

以上、これらの要素が揃っている授業は生徒の目や身体の軽やかさ（行動の速さ）、反応、学びに向かう姿勢が違っていた。日頃の授業から意識できることであるので、私もこれらを常に念頭に置いて授業を行っていきたい。